

C09b 国立天文台・野辺山における常時及び特別公開の現状

御子柴廣、下条圭美、宮澤和彦、立松健一、他(国立天文台・野辺山)、西山広太(日本スペースガード協会)

国立天文台の野辺山地区では、1982年に宇宙電波観測所が完成して以来、土日や休日を含む毎日(ただし年末年始期間を除く)どなたでも施設を見学できるようになっている。そのため、夏休みになると見学者が連日千人を超え、2001年度末までの見学者は延べ228万人となっている。このような多くの見学者に対応するため、野辺山ではこれまでに様々な工夫をしてきた。一般見学者にはまず守衛所で記帳をしていただき、かわりにパンフレットを差し上げている。見学者は、キャンパスの屋外に設けられている解説ビデオや常設展示パネルを見たり、受信体験用模型アンテナに触れたりすることができる。また、45m鏡観測棟に併設された展示室には、解説ビデオや天文クイズなどが楽しめるパソコンの他、45mの主鏡面パネルや主鏡面での作業に用いる「忍者靴」の実物も展示してある。

しかしながら、見学者からは「職員の方から直接話を聞きたい。」といった声が多く、教育・研究団体については要望に応じて職員が交替で施設説明を行っている。2001年度の場合、延べ52名の職員が対応した。この他に、講師派遣の依頼にも応じている。だが、こうした要望は夏季に集中するため、応じきれない場合もある。

一方、年に1回観測室など施設の内部も見学できる「特別公開日」を設けている。当日は天候にも左右されるが、例年1500人から4000人にも及ぶ見学者が訪れる。このため職員は、展示物の作製や安全対策など多岐にわたる準備作業を、1ヶ月程前から通常の教育研究や業務の傍ら分担して行っている。